中学生の文化の甲子園
―第13回県総文祭特集―

平成26年11月21日(金)～12月1日(月)

「咲き誇れ夢の華　～岩手の地から希望の種を～」のもと、第13回岩手県中学校総合文化祭が岩手県民会館で開催されました。開会集会に先立ちまして、岩手県中学校文化連盟を象徴するシンボルマークの紹介がありました。最優秀賞に輝いた小原佳乃さん（盛岡市立厨川中学校３学年）のデザインは、末永く県中文連の歴史とともに歩み続けてくれることでしょう。本当にありがとうございました。

新生！県中文連を掲げ、今年度より総文祭全体にテーマ性をもたせることにしました。初年度のテーマは「夢」。標語とポスター部門の作品（標語部門最優秀賞：一関市立興田中学校３年の千川原風子さん／ポスター部門最優秀賞：盛岡市立下橋中学校１年の伊東佳音さん）にもそれぞれの「夢」を吹き込んでもらいました。

舞台発表部門では、出演団体の16団体（総勢７０２名）が郷土芸能をはじめ、合唱、吹奏楽、演劇等を発表しました。なかでも、12月の全国総文祭沖縄大会で発表することが決定していた岩泉町立小本中学校「中野七頭舞」は、優美さと力強さを感じる発表でした。

閉会集会では、来年度の全国総文祭東京大会に出場する団体の発表があり、紫波町立紫波第二中学校の「佐比内金山太鼓」が選出されました。

展示部発表部門では、全12地区の作品に加えて県外招待作品（青森、山口、沖縄）を含め２６５３点の出展があり、お互いの作品を見て学ぶ場として、絶好の機会となりました。

県No.1 合唱・吹奏楽発表

矢巾町立矢巾北中 特別な思い

特設合唱部（部長）３年　北田　掌子

今年も、岩手県中学校文化祭のステージにお招きいただき、ありがとうございました。

私達は、このステージに向け、「聴いてくださる方々の心に響くような、最高の演奏をしよう」という思いで、一人ひとり意識を高めながら練習に励んできました。３年生にとっては、県中文祭が最後のステージになるということもあり、本番では特別な気持ちの中で、悔いの残らない発表をすることができました。

「真心」「誠実」「謙虚」。これらが、私達の目指してきた、音楽に対する姿勢です。特設合唱部には、歌うことが好きな仲間、音楽をたくさん勉強したいという仲間が集まっています。今、私達がこうして多くの機会を与えていただき、精一杯活動できているのも、指導してくださる先生方、応援してくださる保護者や地域の皆様、そして、伝統を少しずつ積み重ねて、私達へバトンを渡してくださった先輩方のおかげです。

私達はこれからも、こうした感謝の心を決して忘れず、歌えることの喜びを皆と分かち合いながら、日々努力を重ねていきたいと思います。

皆様に、心のこもった最高の合唱を届けられますように。

本当に、ありがとうございました。

盛岡市立北陵中 めざすは感動！

吹奏楽部（部長）３年　佐々木　唯乃

私たちは今年度「Make a Wish」～願いをかなえる」をスローガンに活動してきました。昨年度は、全日本吹奏楽コンクール岩手県大会で金賞を頂きましたが、東北大会には進むことができず悔しい思いをしました。今年は力を合わせ、岩手県で初の全日本吹奏楽コンクール【全国大会】に出場することができました。

この１年間たくさんの人達に支えられながら、今までにない体験をたくさんさせていただきました。この岩手県中学校総合文化祭にも初めて出演することができ、たくさんの方々に私たちの演奏を聴いたいただくことができました。

３年生は今回出演させていただいた県総合文化祭を持って引退となりましたが、最後に県民会館の大ホールで今までさせてくださった方々に感謝の気持ちを伝えることができて本当に良かったと思っています。

これからも北陵中吹奏楽部は、聴いてくださる方に感動していただける演奏をめざして活動していきます。ありがとうございました。

英語弁論 県最優秀賞

一関市立藤沢中　３年　熊谷　聖輝

僕が岩手県中学校総合文化祭で発表したのは、“I Have a Dream”というキング牧師の演説です。世界中を巻き込んだ第二次世界大戦が終わり、自由と平等が実現された国のように思われていたアメリカ。けれどもこの国でさえ、まだ人種の平等はありませんでした。しかし、そんな歴史の中で、キング牧師は肌の色が違う、というだけで差別に苦しむ同胞のために立ち上がり、アメリカ社会に巣くう不正義に対して非暴力で抵抗することを貫き、アメリカに大きな影響を与えました。

世界中の人が顔や肌の色、言葉が違っても同じ人間として幸せに暮らし、助け合って生きていけるような社会になってほしい。そのためには、僕たちがキング牧師の遺志を受け継がなければいけないのだと感じ、スピーチでその事を伝えたい、と強く思いました。

僕はキング牧師になったつもりで毎日練習を重ねました。初めは表情や声の抑揚、ジェスチャーなどがうまくできませんでしたが、キング牧師の当時の演説を聞いたり、先生方に教わったりするうちに、だんだん上達することができました。この経験を通して努力すること大切さはもちろん、大勢の人の前で発表することで自分に自信がつき、大きく成長することができました。

わたしの主張 県最優秀賞

岩手大学教育学部附属中　３年　渡邉　美卯

私が今回発表させていただいたのは「一言の重さ」という題の主張です。たった千文字程度の主張が私と多くの人をつないでくれました。

始まりは１枚のプリント。授業中に配布された「私の主張募集要項」のプリントです。そのプリントには発表内容の例が書いてありました。「身の回りや友達との関わりなど」というテーマを見た時、私は参加することを決意したのです。友達とのすれ違いなどは私にとってとても身近な話題であり、誰かと意見を交わしたい話題だったからです。

それから様々なことがありました。地区大会、県大会、全国大会、文化祭。そして中学校総合文化祭。多くの場で発表させていただきましたが、一番緊張したのはたった１人の友達を目の前にして練習した時です。ほとんどの発表は楽しんで行うことができました。発表を楽しめたことは、大変良かったのではないかと思います。また、大会や文化祭のなかで見た多くの主張は私自身を成長させてくれました。これらの体験は私の宝物です。

最後に、私がここまでこられたのは多くの方の支えがあったからです。お話を聞かせてくださった駒井さん。盛岡手紙館のみなさん。練習につきあってくれた友達。アドバイスを下さった先生方。主張を通して人の輪が広がり、深まったことを実感しています。関わってくださった全ての人への感謝の気持ちでいっぱいです。

平成26年度各地区代表出演校

小本中学校 全国総文祭沖縄大会出場
―平成26年12月13・14日―

宮古・下北地区
小本中 郷土の誇りを胸に沖縄の地で舞う

３年　金澤　海斗

昨年私たちは沖縄で行われた全国中学校総合文化祭に出場しました。

全校による七頭舞への取り組みが始まったのは３年前、私が１年生の頃です。東日本大震災で元の校舎は使えなくなりましたが、辛い今だからこそ地域の皆さんと共に前に進もうと、七頭舞保存会の方々からも御指導いただき、踊り手、お囃子、そして七頭舞の歴史を説明する語り手に分かれ、取組みました。

初めはただ、舞うことで気持ちを奮い立たせていたという状態でしたが、何度も練習を重ねる中で次第に息も合い出し、自信も生まれました。

思いを一つにし、臨んだ全国大会。友人らと声を掛け合い、これまでの練習やふるさと小本に元気を届けようと気持ちを奮い立たせました。本番では、舞う喜びを身体全体で表現することができました。そのとき私の目に映った頼もしい仲間の姿は忘れることができません。発表後に会場からいただいた大きな拍手の音は今も心に残っています。この仲間達と中野七頭舞を踊ることができて本当に良かったです。

中野七頭舞には多くの人たちの夢や希望が詰まっています。歴史や技術だけではなく、今私たちが感じているこの思いも次に舞う後輩へとしっかりとつなげていこうと思います。

全校による七頭舞への取り組みが始まったのは３年前、私が１年生の頃です。東日本大震災で元の校舎は使えなくなりましたが、辛い今だからこそ地域の皆さんと共に前に進もうと、七頭舞保存会の方々からも御指導いただき、踊り手、お囃子、そして七頭舞の歴史を説明する語り手に分かれ、取組みました。

初めはただ、舞うことで気持ちを奮い立たせていたという状態でしたが、何度も練習を重ねる中で次第に息も合い出し、自信も生まれました。

思いを一つにし、臨んだ全国大会。友人らと声を掛け合い、これまでの練習やふるさと小本に元気を届けようと気持ちを奮い立たせました。本番では、舞う喜びを身体全体で表現することができました。そのとき私の目に映った頼もしい仲間の姿は忘れることができません。発表後に会場からいただいた大きな拍手の音は今も心に残っています。この仲間達と中野七頭舞を踊ることができて本当に良かったです。

中野七頭舞には多くの人たちの夢や希望が詰まっています。歴史や技術だけではなく、今私たちが感じているこの思いも次に舞う後輩へとしっかりとつなげていこうと思います。

岩手地区
滝沢南中 吹奏楽

３年　南舘　あかり

私たちは、岩手県総文祭だからできる演出をしようと、みんなでたくさん考えた構成で本番に臨みました。新しい試みとして、２曲目に演奏した「朔と亜紀」（世界の中心で、愛をさけぶより）では、舞台を暗くして演奏し、その途中に着替えるという、今まで経験のないことにもチャレンジしました。百円均一で購入したＬＥＤライトで無事に楽譜が見えるだろうかと、夕方暗くなってから音楽室の電気を消して実験したことも懐かしい思い出です。「宝島」では、いつもの動きに加えて県民会館の方にお願いしミラーボールも使わせてもらいました。

演奏させていただいた３曲の中で最も思い入れが強いのは、コンクールの自由曲として取り組んだ「ダフニスとクロエ」です。全国大会常連校が必ず１度は選ぶ名曲で、非常に難易度が高いものです。練習方法を工夫し、時間をかけて仕上げてきた曲です。予想以上の難しさに苦労する部分もありましたが、みんなが大好きなすごく思い出深い曲です。

この総文祭をもって、このメンバーでの舞台は最後の機会でした。部員それぞれさまざまな想いを胸に演奏しました。特に３年生にとっては、岩手県総文祭というとても大きな舞台で３年間の部活動を終えられたことに、深く感謝しています。ありがとうございました。

久慈地区
久慈中 合奏

３年　大内田　あさり

久慈中学校マンドリン部は、創部以来、58年たった今でも、その伝統は途切れることなく、現在に至っています。

今年は地域での演奏活動を、例年以上に活発に行い、聴いて下さる方々に笑顔と感動を届けることを目標に、練習に励んできました。そんな中、県中文祭出演という貴重な機会を与えていただいたおかげで、私たちにとっては本当に充実した１年になりました。

私たちは、今回、県民会館のステージで３曲のマンドリン演奏を行いました。「じょんがら節」をテーマにしたマンドリンのための「じょんがら抄」、いきものがかりの「ありがとう」、そして３日後にひかえた東北大会での演奏曲でもあった、日本古謡「さくら」をテーマにした「さくら奇想曲」です。ホールはこれまで私たちが演奏してきた中でも規模が大きく、ステージからは多くの中学生のみなさんの顔が見えました。客席がとても近くに迫り、たくさんのライトの熱も感じて少々緊張しましたが、精一杯の演奏ができたと思います。

今年の中文祭のテーマは「夢」でしたが、私たちの夢は、久慈市から岩手県全体にマンドリンの音色を響かせ、みなさんに笑顔と感動を届けることです。中文祭での演奏をよい経験とし、これからも夢を求めてマンドリン音楽を奏で続けていきたいと思います。

花巻市
南城中 合唱と詩の群読

３年　菅原　瑞希

今回の岩手県中学校総合文化祭への出演は、私たち３年生にとって最後のステージ発表でした。

中学校３年間で、私たちは様々な場面で合唱を披露してきました。３年生の４月には修学旅行先の上野公園などで、６月には被災地の釜石市で、合唱をしました。その他にも、花巻市で行われた東北中学校駅伝大会開会式でのおもてなしの合唱や、学校のそばの老人ホームでの交流など、今回の発表に至るまでに、たくさんの経験を積み重ねてきました。

また、私たちは、小学校の頃から宮沢賢治先生の童話や詩、歌に慣れ親しんで育ちました。そのため、私たちにとって賢治先生の詩や歌はとても身近で、大きな影響を受けてきました。

今回の私たちの発表では、この２つを融合させて構成しました。「震災からの復興」に向けた私たちの活動を合唱とスライドで紹介し、被災地での２回のボランティアを通して感じた被災地の方々の心の強さを、賢治先生の「雨ニモマケズ」に結び付けて朗読しました。当日は、多くの方々が私たちの発表を観て下さり、たくさんの拍手を頂き、本当に嬉しかったです。

私たち３年生のステージ発表は県中文祭で終わりました。しかし、ここを新たな出発点とし、私たちが築き上げてきた合唱の文化と賢治先生の教えを、今度は後輩たちに引き継いでいきたいです。

胆江地区
衣川中 郷土芸能

１年　佐藤　あかり

今回私達は小学校から取り組んできた地元の郷土芸能「み神楽」を１年生の女子だけで発表しました。大きなステージでの発表はとても光栄でした。その反面、沢山の観客の皆さんの前で舞う事や、学校代表としてステージに上がるということへの緊張もありました。昨年の５月から、１週間に１回（１時間）の練習がはじまり由曲として取り組んだ「ダフニスとクロエ」です。全国大会常連校が必ず１度は選ぶ名曲で、非常に難易度が高いものです。練習方法を工夫し、時間をかけて仕上げてきた曲です。予想以上の難しさに苦労する部分もありましたが、みんなが大好きなすごく思い出深い曲です。

この総文祭をもって、このメンバーでの舞台は最後の機会でした。部員それぞれさまざまな想いを胸に演奏しました。特に３年生にとっては、岩手県総文祭というとても大きな舞台で３年間の部活動を終えられたことに、深く感謝しています。ありがとうございました。

遠野地区
遠野中 演劇

３年　浅沼　壱星

私達は、県中文祭のステージで演劇を発表するという機会をいただきました。せっかくのチャンス。遠野市で毎年冬に行われている『遠野物語ファンタジー』の要素を取り入れたものにし、私達の故郷「遠野」を発信したいと思いました。

３年生全員で作り上げた今回の演劇は、１度文化祭で演じ、それを手直しして県民会館の発表に臨んだものです。役者はもちろんですが、吹奏楽や合唱その他の係も、１４５人全員が舞台に上がるということで、どのようになるのだろうという不安がありました。

練習を始めたころ、どの係でも計画性がなく、ただ時間が過ぎていきました。そんな時、私達のやる気を引き出してくれたのは、先生方や、指導にきてくださっていた地域の方々でした。私達は学校の代表であるだけでなく、遠野市の代表だと気づくことができたのです。それからは、練習時の雰囲気が変わり、本番に向けての意識が高まっていきました。

そして本番。多少の不安はあったものの、自分を信じ、そして観客の皆さんの温かい拍手に支えられながら、最後まで演じきることができました。あっという間の50分間でした。私達は、このような機会をいただいたこと、指導してくださった全ての方々に、心から感謝しています。

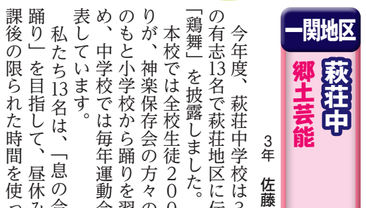
和賀地区
上野中 集団演技

３年　八重樫　友衣子

「原頭太鼓部」は老人ホームへの訪問や地域の祭りへの参加など、ボランティアでの演奏を中心に活動してきました。そのため、県民会館のステージで演奏すると聞いた時はとても驚き、また不安になりました。本番にうまく演奏できるのか、ほかの団体に見せて恥ずかしいものでないのかなど、様々な気持ちが心をよぎったのです。その不安を消すために今まで以上に練習に力を入れ、細かいところまで確認しました。

本番直前のリハーサルでは動きや声の大きさで何度か直しがあったため、本番の演奏が不安になりました。でもステージに立つと、その不安は全くなかったかのように「北上川」から堂々と演奏することができました。体の動きや声の大きさは、他の団体よりも劣っていると感じるところはありましたが、今までで最高の演奏をすることができ、うれしかったです。演奏が終わったあとの拍手は、どの団体よりも大きなものに聞こえました。

大きなステージで後輩と共に最高の演奏で活動を締めくくることができ、大きな達成感を味わうことができました。後輩たちには、演奏で感じた気持ちを伝え合い、これからの練習にいかしてほしいです。このステージでは本当に良い経験ができました。ありがとうございました。



一関地区
萩荘中 郷土芸能

３年　佐藤　滉大

今年度、萩荘中学校は３年生の有志13名で萩荘地区に伝わる「鶏舞」を披露しました。

本校では全校生徒２００名余りが、神楽保存会の方々の指導のもと小学校から踊りを習い始め、中学校では毎年運動会で発表しています。

私たち13名は、「息の合った踊り」を目指して、昼休みや放課後の限られた時間を使って練習してきました。初めの練習の頃は舞が小さかったり、動きが揃わずに不安ばかりが大きいものでした。

いよいよ本番です。ステージに上がる前は心臓が飛び出そうになるくらい緊張しましたが、時間が経つと大きなプレッシャーはどこかにいき「舞っていて楽しい！」という気持ちがどんどん湧き上がりました。舞が終わった時に聞こえてきた観客の皆さんの拍手は、私達に達成感を与え、舞い終わった喜びを音として包んでくれているようでした。同時に、指導して下さった芳英先生や保存会の佐藤さん、応援して下さった先生方への感謝の気持ちがあふれてきました。あの瞬間、努力や頑張りの先には良いことが待っているのだと感じることができました。

最高の舞台で、最高の舞を、最高の仲間たちと演じきれたことに感謝します。本当にありがとうございました。

二戸地区
御返地中 集団演技

３年　奥澤　拓真

私達が今回発表した「燃心太鼓」は、先輩方から20年間引き継がれてきた大切な文化です。今年度から全校生徒で取り組むことになりました。

演奏した、「みずほ」「やまなみ」「うねり」の３曲は、地域の豊かな自然をイメージして作られました。一曲一曲に込められた思いを伝えるために、掛け声を大きくし、動作を全員で揃え、音の強弱でメリハリを出すことを意識して練習に取り組みました。最初は、完成するか不安でしたが、目標を少しずつクリアしながら、いよいよ大舞台である県中文祭を迎えました。

本番では、皆とても緊張していました。しかし、「練習してきたことを、胸を張って出し切ろう」と、心を一つに演奏に臨み、今までで最高の演奏をすることができました。

今回の県中文祭での発表は、私達にとってとても良い経験になりました。私達３年生は最後の演奏になりましたが、後輩達がこの伝統を引き継ぎ、さらに発展させてくれることを願っています。

最後に、県中文祭でお世話いただいた皆さん、指導をして下さった二戸大作太鼓保存会の柴田さんに感謝いたします。ありがとうございました。

宮古・下北地区
河南中 合唱

３年　菊池　眞悠子

復興ソング「未来へ」は、支援して頂いた方々への感謝や震災を忘れないという思いを込めて作られました。歌詞は、昨年度の先輩達が全校生徒にアンケートを取り、そこから共通する思いや言葉を選び、「未来へ」が完成しました。

今回、私たちは、支援をして頂いた方々、復興ソングに協力して下さった皆様に感謝を伝え、笑顔になってもらう事を目標に練習してきました。この復興ソングは、今年度から合唱化され、手話も付いたことで練習はなかなかうまくいきませんでしたが、友達同士聞き合うことで、手話も歌も上達しました。

そして、迎えた発表。協力校である見前中学校、飯岡中学校の生徒も加え、舞台に臨みました。スポットライトが当たった瞬間全身が震えました。発表の時間はあっという間でしたが、発表後も震えは止まりませんでした。それほど私たちは充実した時間を過ごすことが出来ました。

私達３年生は卒業ですが、復興ソングを作っていただいた先輩たちの思いをこれからも後輩達は受け継いで欲しいと思います。

私達にこのような発表の機会を与えて下さった中文連の皆様に感謝いたします。本当にありがとうございました。

気仙地区
越喜来中 郷土芸能

３年　三浦　朝日

僕が剣舞に興味を持ち始めたのは６歳の時でした。父が保存会のメンバーで、お盆に各家をまわる時について行ったのがきっかけです。最初は「お面が怖い」という印象でしたが、このかっこいい踊りを踊りたいと思うようになりました。初めて踊ったのは小学校３年生の時でしたが、その時と今とでは踊りに込める気持ちが変わっています。

中学校での今年の郷土芸能の練習が始まる前に、各伝統芸能の起源や由来を学ぶ機会がありました。そこで私たちの踊っている「崎浜念佛剣舞」が、長い伝統があるだけでなく、とても誇り高いものであるように思え、以前の何倍も一生懸命に踊るようになりました。また、その視点で地域の保存会の方々の踊りを見てみると、伝統と誇りを守ってきたからこそ熟心な踊りになっているのだと感じ、僕たちもこれから先、この伝統と誇りをしっかりと受け継いでいきたいと思いました。

県中学校総合文化祭の発表では、この思いを一生懸命に踊りに込めました。越喜来中学校の生徒全員が力を合わせたことで、岩手県の他の中学校の皆さんに自分たちの伝統と誇りを伝えられたので良かったです。とても緊張しましたが、精一杯踊った後の汗の気持ちよさはたまらないもので、すばらしい経験になったと思います。

盛岡・紫波地区
紫波二中 郷土芸能

３年　藤井　英寿

佐比内金山太鼓は約30年前に佐比内小学校のＰＴＡから生まれました。そのスローガンは「子供達に文化を」です。以来、保育園児からお年寄りまで、各年代で太鼓の音が地域のみならず各地に響わたっています。

８月の「佐比内金山祭り」のために、７月から練習が始まりました。夏場はとても暑く、メンバーのみんなも練習に集中できませんでした。しかし、盛岡紫波地区代表として県中学校総合文化祭に出演することを励みに、夏の練習に取り組みました。また、10月には本校の文化祭で演奏して、本番をイメージして演奏することができました。その後、本番まで約３週間、地域の若衆のリーダーの指導のもと、夜間の練習を頑張ってきました。指導者の厳しい評価、それを何とか改善するような練習が続きました。

そして、本番、今までの金山太鼓の舞台の中では一番緊張しました。しかし、必死になって演奏を終えたとき、観客の拍手はとても気持ちの良いものでした。更に、「佐比内金山太鼓」は来年度、全国中学校総合文化祭の出演を推薦されました。

最後に、私たちがこのよう場に立てたのも沢山の人の支えがあったからだと思います。後輩たちは来年度の全国中文祭に向けて頑張ってほしいと思います。そして、県内各地で様々な中学校の「文化」が盛んになることを期待しています。ありがとうございました。